



6月総会で新体制となり、その後4ヶ月が経ちましたが、この間だけでも多くの動きをつくってきています。そして事務局一人ひとりが持てる力を精一杯出し合いながら、よい仕事に向けて日々、奮闘しています。

「協同ではたらくガイドブック(実践編)」が11月中旬の発行に向けて、ポノワークスの皆さんとともに、最後の編集・追い込みに入っています。入門編は協同総研と本部有志で作りましたが、今回の実践編はポノワークスさんが入ることによりイラストも多く、わかりやすい言葉で編集されています。一般書店に置く計画やネット販売も行う予定にしており、多くの人の目に触れていただく機会になるので、完成のお披露目の企画も含めて、より販売促進に力を入れていきたいと考えています。2022年10月1日に労働者協同組合法が施行することにあわせて、各地域で労協法制定記念フォーラム、地域づくり講座、仕事おこし講座、市民講座等の資料として、「入門編」と共に多くの皆さんにご活用をいただければと思います。特に「協同労働の働き方」と「労働者協同組合を設立すること」を中心にまとめています。

「協同の発見」のアーカイブ化についても進めています。この数年間会員から「協同の発見を紙ではなく、データで見たい」という意見が出されるとともに、労協法制定と相まって、会員外の方からデータをい

ただけないかということも多く寄せられています。このことに対応し、より多くの人の手にとっていただくために、センター事業団三多摩事業本部合縁奇縁さんと協力しながら、システムの構築を目指しています。もう間もなく、会員の方はパスワードを入力すれば、インターネット上でも「協同の発見」の内容が見られる仕組みをつくっていきます。順次作業を進めています。

令和3年度の社会福祉推進事業も本格的に始まりました。福原宏幸(大阪市立大学名誉教授)委員長のもと、鍋木奈津子さん(上智大学)、藤村貴俊さん(京丹後市)、林星一さん(座間市)、西田茂生さん(一般社団法人ヒューマンワークアソシエーション)、四井恵介さん(有限会社CR-ASSIST)、木村良子さん(センター事業団富里現場)、田嶋康利(日本労協連)さんが委員となり推進しています。テーマは「生活困窮者及び被保護者に係る就労支援事業及び家計改善事業等の協働実施に向けた調査研究」です。これからアンケート調査事業並びにヒアリング調査を行ない、来年度末に報告書を作成します。生活保護と生活困窮の連携も含めて、新たな制度・政策に資するヒントを得る調査研究にできればと考えています。

労働者協同組合や協同労働を「知りたい」「立ち上げたい」「働きたい」という方々との懇談も継続的に開催し、多くの出会いが生まれています。「協同ではたらくガイドブッ

ク入門編」の読者座談会を10月9日(土)と10月14日(木)に開催しました。「果樹栽培を継続的に行うために協同出資・協同運営をする労働者協同組合を立ちあげられないか」「ブラジル人の方とキャッサバの育苗を仕事にする労働者協同組合をつくりたい」「保育園を退職後に、住む地域で居場所をつくりたい」「個人で学習塾を経営していますが、卒業生の就労の現場をつくろうと考えたときに、協同労働の働き方があるのではないか」等。多様な相談が寄せられるなかで、こちらが一方向的に回答するのではなく、参加者同士で意見を言い合う場にもなっています。このような場を継続的につくりながら、「知る」講座(市民講座・まちづくり講座等)を旺盛に開催するとともに、座談会のようにおしゃべりする「交流」の場も参加者が求めていると感じました。それは、本号にも掲載した東京都武蔵野市・三鷹市での市民講座や懇談会からも同じことを感じています。

大学の寄附講座では、この4ヶ月で千葉大学、沖縄国際大学、埼玉大学、新潟大学の講座に関わってきました。そのなかで、千葉大学の学生からは「地元でカフェの運営や白菜等の農産物廃棄の現状を変えたいので、一度相談にのってくれませんか」との話があり、未来人財部の仲間とともに懇談の上、ワーカーズコープの現場を見ることになりそうです。新潟大学では「協同労働

サークルをつくろう」と呼びかけたところ、「協同労働に興味を持ったから、サークルに参加したい」との声も出てきました。またある中学校の先生から、中学校1年生の総合的学習の時間で、「働く目的・意味」について話してほしいとの連絡がありました。大学生と話していて特に思うことですが、協同労働の働き方や労働者協同組合に共感する理由として「持続可能な社会をつくること」とのつながりで語る学生が多くいます。子どもや若者が未来の社会をつくる意味で、大切にしていきたいです。

他にも「協同の発見」「研究会」「外部誌への寄稿」「協同労働・労働者協同組合に関する問い合わせの対応」「協同を軸としたネットワークづくり」等、協同総研の役割が広がっていることを実感しています。広がるのはいいのですが、忙しくなりすぎて、ここ4ヶ月は目先の視点でしか持てずに研究活動を進めてきているようにも感じています。

より会員の力を活かす、より労働者協同組合や協同労働に共感を持つ方々の力を借りるなどの媒介する役割が、今、求められていると考えています。

今後も「協同社会のデザイン」と「労協法施行」に向けての2つのテーマを深め、中長期的な視点を持ちながら、研究と実践をつなげるコーディネーターとしてがんばります。